

一般国道406号 長野市 戸隠祖山

前回かわら版では、一般国道406号 長野市 戸隠祖山で実施している道路事業の目的や、道路計画について説明させていただきました。

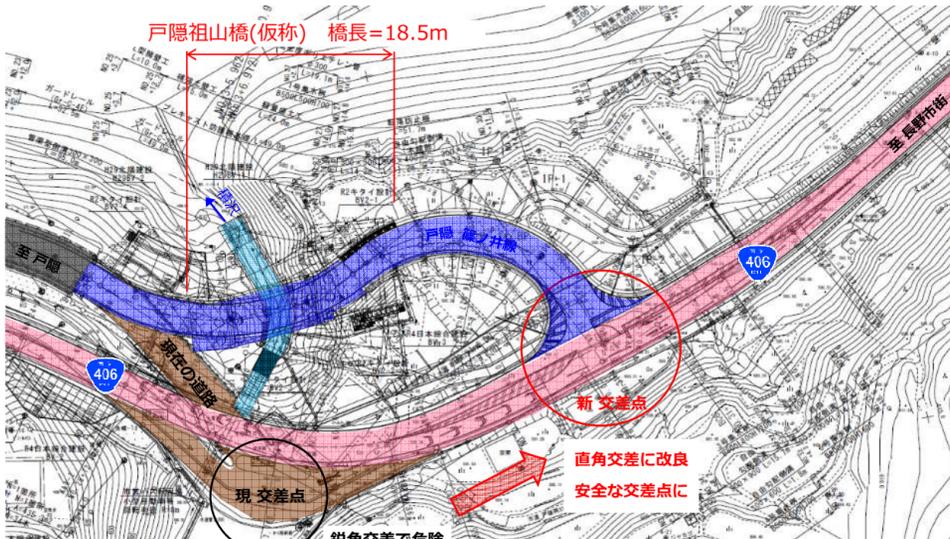
今回は、道路築造工事についての広報です。

実施中の道路築造工事

国道406号の山間部は幅員狭小でカーブが連続する区間が多く、円滑な交通の支障となっています。

このため長野建設事務所では、戸隠祖山工区として延長951mの道路事業を実施中で、一部では工事を行っています。

今回ご紹介するのは、国道406号と主要地方道戸隠篠ノ井線の鋭角交差点を、直角で安全な交差点に改良する工事です。前回かわら版でPRさせていただいたように、交差点改良に伴う付け替え道路として実施している「橋梁架設工事」の一部です。



(仮称)戸隠祖山橋

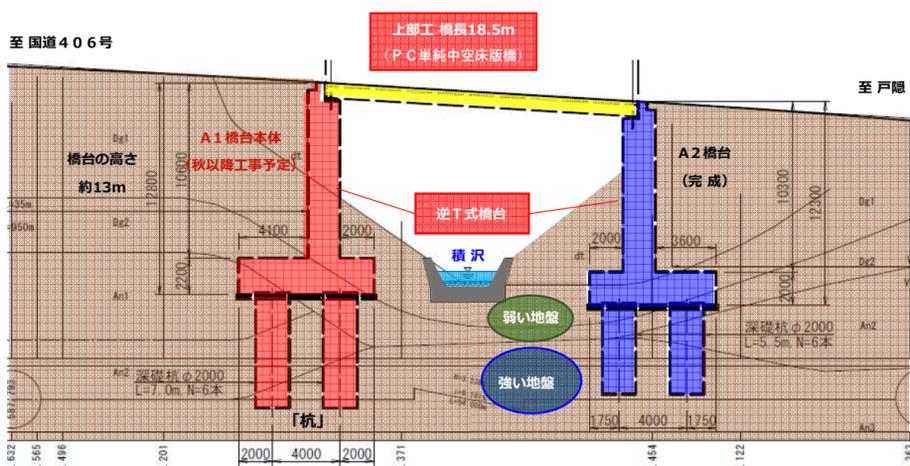
(仮称)戸隠祖山橋は橋長18.5mの橋梁です。自動車荷重などを受け持つ上部工は、工場で製作したコンクリート製の桁を現場に運搬し配置する形式を採用しています。

上部工の構造には大きく分けてコンクリート製と鋼製があり、現場の状況などに応じて使い分けられます。戸隠祖山で架設する橋梁では、沢が小さく橋長が比較的短いことから、経済性に優れたコンクリート製の桁を使用します。

上部構造からの荷重を受け持つ下部工はコンクリート製の橋台で「逆T式」を採用しています。橋を横方向から見た時の擁壁断面が「T」を逆さまにした形をしていることから、「逆T式橋台」と言われています。

上部工と橋台の荷重は地盤に伝えられます。現場周辺の地盤は、浅い部分の強度が低く荷重を支えることが出来ないため、より強度がある深い地盤まで荷重を伝える「杭」が必要です。

橋台を高くして直接深い地盤に荷重を伝えることもできますが、高い橋台を造る工事は困難で不経済となることから、橋台と杭を併用した構造としています。

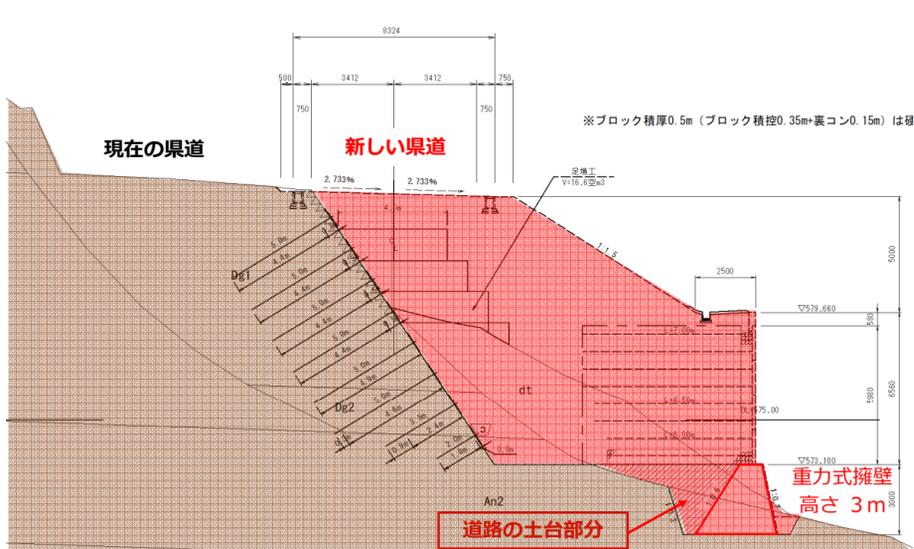


現在の工事内容

橋台2基のうち1基が令和6年3月に完成しています。現在、令和6年度の工事で、残る橋台1基と道路の土台部分を施工しています。

山谷に囲まれた狭い範囲での施工を強いるため、橋台と道路の土台部分を同時に実施することが出来ません。このため、令和6年9月の時点で道路の土台部分を先行して実施中です。

道路の土台部分は高さ3mのコンクリート製の擁壁で、現時点で掘削作業が完了しており、コンクリートを打つ段取りを行っています。



A2橋台 令和6年3月完成



11月から橋梁下部工に着手する予定となっており、初めに「杭」の工事に着手する予定です。

次号では、杭や橋台についてお知らせします。